

平成23年度第1回リニモ沿線地域づくり会議 議事録

日 時：平成23年8月25日（木）午後2時から4時まで

場 所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室

出席者：委員13名（代理含む）、事務局（愛知県地域振興部長、沿線市町担当課長 他）

開 会

1 あいさつ（愛知県地域振興部長）

リニモ沿線地域は、リニモを基軸に広域的な交通ネットワークが充実し、また、多くの大学・研究機関が集積しているだけでなく、名古屋市に隣接しているところから、住宅地としても大変有望な地域である。

この大きなポテンシャルを活かし、リニモを積極的に活用した地域づくりに取り組んでいくため、県と沿線市町では、「リニモ沿線地域づくり構想」を策定し、構想の推進に向け、これまでも、瀬口先生はじめ「リニモ沿線地域づくり会議」の委員の皆様から、貴重なご意見をいただいている。

本県では、委員の皆様からのご意見を参考にしながら、知の拠点やモリコロパークなど沿線施設の整備、これら施設を活用したイベント等交流の拡大、さらには、地元で進められている開発の支援など、リニモ沿線の地域づくりに全力で取り組んでいるところである。

県と地元の市町が連携して、強力に地域づくりに取り組んでいくことにより、大村知事が掲げる「日本一元気なあいち」をリードする元気な地域が実現すると確信している。

元気ある地域づくりを進めていくため、これまで以上にしっかりと取り組んでいきたいと考えており、委員の皆様には、忌憚のないご意見をお願いしたい。

2 議題

リニモ沿線の地域づくりの状況について

（1）県・沿線市町の取組について

事務局から資料1～7を説明

（2）リニモ沿線地域づくり調査研究会の取組について

事務局から資料8，9を説明

（3）意見交換

【委員及び事務局の主な発言】

○委員

リニモの利用者数は年々着実に増えている。人口が減少している時代に、着実に毎年利用者数が増えている鉄道は全国でも珍しい。もっとPRしてもよいのではないかと思う。

モリコロパークの西のエントランスエリアで新しいゲートの設置が検討されてい

るが、公園へは公園西駅から行った方が近くて便利である。周辺まちづくりの中でのアプローチの検討をするうえでは、公園西駅から楽しく公園に入っていけるように、一体感のあるものにしていただきたい。

サイクリングロードの整備にあたっては、そのまま自転車で乗り入れて楽しめるようにしていただきたい。

○委員長

昨年、沿線の大学に、リニモ駅からのスクールバスの運行に協力をいただいたことも、リニモの利用者数の増加につながっていると思う。

○事務局

長久手町が進める公園西駅周辺整備と、県が進めるモリコロパークのこどものひろば整備については、連携しながら進めていく。今年度、建設部が実施するこどものひろば整備の基本設計に反映できるようにしたい。

また、サイクリングロードについては、自転車の持ち込みが可能であると聞いているが、担当部局に伝える。

○委員長

公園西駅周辺の開発については、まちづくりを進める長久手町と公園整備を進める県が情報交換しながら、一体的な整備を進めてほしい。

○委員

リニモ沿線地域づくり構想の策定時には、リニモ沿線の開発行為については、万博の理念を継承し、環境に配慮するという事を議論した。かつての議論が現在の取組にどう反映されているのか。県は、全体として市町の取組にどのように反映させていこうとしているのか、教えてほしい。

○事務局

まちづくりについては、各市町でコンセプトを考えているので、市町から情報を得ながら把握するよう努めているが、今後は、今までの議論を反映できるように、どのような議論がなされて、どうしていくのか、市町とも相談していきたい。

○事務局

公園西駅周辺は、モリコロパークに隣接する土地であることから、低炭素まちづくりや環境に配慮したまちづくりとしてモデル的な事業が展開できないか検討している。

○事務局

豊田市が産業集積用地の整備を予定している地域は保安林があるので、当然、環境配慮型で事前環境調査を実施しながら進めていく。将来的に研究開発機関を誘致する場合には、リニモの活用につながるよう取組を進めていくことを検討している。

○事務局

日進東口論議土地区画整理事業は、これから事業区域や事業を実施する組織などを具体化したうえで事業化に向かう予定であるので、今後、基本構想をまとめるうえで、環境配慮の考えを取り入れながら進めていきたい。

○委員

これからの計画の中で活かしていただければありがたい。おさらいであるが、当時は大きく3つの議論があった。一つ目は自然環境配慮型で進めていこうということ。二つ目は利便性の考え方を捉え直さなければならないということ。例えば、近くにコンビニや自動販売機がなくとも、住んでよかったと思えるまちづくりをしなければならない。三つ目は、それぞれの駅周辺にポツンポツンと開発地域ができるのではなく、駅間の整備をしっかりと考えなければいけない、という議論がなされた。このような点を活かしてこれから取り組んでほしい。

○委員

地域づくり活動については、学生が積極的に率先して活動するようになってきている。

そこで、資料1の主要施策のうち、12番（企業、大学等が参画した交流イベント等の実施）、23番（沿線大学のコンソーシアム形成等による連携強化）について、現状を教えてほしい。

○事務局

12番に関しては、秋に、リニモ沿線地域の大学や施設が連携してイベントを実施することが予定されている。

23番に関しては、長久手町が古戦場駅にリニモテラスを整備する予定があるが、これを大学の連携拠点施設に活用できないか検討されていると聞いている。

○委員長

施設整備ができなくても取り組める可能性もあると思う。大学自身が参加、議論しようという姿勢をもち、県がそのお膳立てを行うということ、今後の課題として進めてほしい。

○委員

ボランティア活動を通じて、学生の大学間の交流が少しずつ進んできたが、これまで学生は、車に便乗するなどして、リニモを使わずに大学に集まって交流していた。

古戦場駅のリニモテラスという、学生たちを繋ぐ場所や情報交換できる場所があると、古戦場駅に学生が集まって交流ができ、大きな効果を持つと思う。

ボランティアやイベントなど、学生が何かやりたいと考えたときに、情報を持ち込んだり、そこに行けば何か情報が得られるという場がこれまで要望されていた。もちろん大学も働きかけはするが、リニモテラスを整備するときには、そのような点を配慮してほしい。

○委員長

リニモテラスの早期整備が期待される。

県芸大の機能を芸大通駅の駅前に持ってくる予定はないのか。

○事務局

駅前に土地がないのでなかなか難しいと思われる。

しかし、現在、県の取組として、芸大通駅周辺の賑わい創出について検討してお

り、アイデア出しも含めて勉強しているので、また、改めて報告する。

○委員長

県芸大は、公立だからこそ頑張ってもらいたい。

○事務局

大学のコンソーシアム形成については、長久手町の総合計画の中でも、大学連携という新たな施策の柱を立ち上げて、古戦場駅に設置されるリニモテラスを大学連携の拠点施設として位置づけている。リニモ沿線の大学と連携ができる拠点の整備を大きな課題としてとらえ、前向きに検討したい。

○委員

資料3のリニモ利用者数の推移をみると、藤が丘駅を除く駅の中では、八草駅の乗降者数が一番多い。これは、愛知工業大学の学生の利用が多いと思われるが、リニモの利用を指導してきたこともあり、その効果が現れてきたのではないかと思う。

愛知工業大学は自家用車による通学を許可しているが、自家用車通学の申請も減ってきており、リニモや愛知環状鉄道に移行していると思われるので、リニモを利用した学生の交流が活発になればよいと思う。

豊田市の資料5で、パーク&ライド駐車場が拡大されるとあるが、八草駅まで車で来てリニモに乗って行くと、愛知環状鉄道の利用者数の減少に繋がるのではないか。

また、愛知工業大学は、(県と地域の大学が中心となって設立した)東部丘陵生態系ネットワーク協議会に加盟しているところであるが、沿線の活性化の一方で、協議会の理念として、環境の保護が謳われている。今後、大学としてどのように考えるべきか参考にするため、県の考えを教えてください。

○事務局

豊田市の場合、愛知環状鉄道は、基幹産業である自動車産業の方を中心に利用していただいているが、八草駅まで出る手段がない方の利便性を考慮して、台数を拡大し、有料化して状況をみたいと考えている。鉄道に乗り換える手段として利用していただいていることが見受けられるので、鉄道の利用者が増えることを期待して拡張する。

○事務局

東部丘陵生態系ネットワークについては、資料1の2番で掲げている施策の取組として、名古屋東部丘陵地域をモデル地域とした生態系ネットワークの形成を、県環境部が担当して進めている。

リニモ沿線地域づくり構想は、環境に配慮しながら必要な開発を進めていくという構想であるので、環境とのバランスを図るための施策も盛り込まれている。

○委員

東部丘陵生態系ネットワークは、今ある里山をそのまま残すというものではなく、地域の近郊にある自然も視野に入れながら、沿線にある大学のキャンパスの中で何ができるかということが基本的な考えにある。

無原則に開発が行われるようなことがあれば、このような視点から意見を申し上げ

げることあるかもしれない。

○委員長

学生は、八草駅からリニモだけではなく、愛知環状鉄道も多く利用している。

八草駅でのパーク&ライド駐車場について、八草駅は、リニモと愛知環状鉄道の結節点ということもあり、2つの鉄道を視野に入れた特殊な状況にあると思う。

○委員

資料3にリニモの利用者数の推移があるが、通勤・通学、観光、ショッピング、レジャーなど、どのような目的で利用しているのか、利用目的別の実数と推移を把握しておいた方がよいのではないかと。今後、知の拠点の供用開始、モリコロパークの施設整備、周辺における商業施設の開業など、利用者の利用目的が変わってくると思われる。あまりコストをかけずに、どの事業がどれくらい影響を与えているのかということ把握するためにも、基本的なデータを把握しておいた方がよいと思われるので提案をさせていただく。

知の拠点については、施設そのものが産業観光施設となって、かなりの集客が見込めるのではないかと。リニモを使って、知の拠点を見学し、古戦場などの歴史的な観光資源をまわってもらうような、観光によるリニモの活用も考えられる。

知の拠点の中に、お客様向けの観光ゾーンというようなものがないので、ソフト、ハードも含めて、観光という側面での施設の充実も検討してほしい。

○委員長

知の拠点の観光施設の整備については、期待するということがよいか。

○事務局

よいご助言をいただいたので、参考にしたい。

○事務局

利用目的別の状況については、学生の通学が主と考えているが、利用目的ごとのデータもあったほうがよいと思われるので、ご提案を参考に検討したい。

○委員長

利用の目的は様々であると思うので、利用促進策について、県庁内のプロジェクトチームでの成果などがあれば報告していただければよい。

○委員

瀬戸市は他の市町と違って開発案件がないので、観光を中心に活性化に取り組んでいる。

リニモ沿線をアートや芸術の点での価値を上げるうえで、県芸大や陶磁資料館の役割は大きいと考える。特に瀬戸市は、陶磁資料館がリニモとの接点になっており、また、芸大通駅とも大きな関わりを持っている。

資料2に、芸大通駅及び陶磁資料館南駅周辺の賑わい創出について検討するとあるが、陶磁資料館南駅から陶磁資料館までの道を価値のある道とし、また、芸大通駅についても駅から県芸大が始まるような、わくわく感のある道にすることで、リニモ沿線のイメージやリニモ沿線に住むことの価値が上がるように思うので、リニ

モ沿線の活性化のために、瀬戸市の持つ潜在力を引き出してほしい。

○事務局

芸大通駅及び陶磁資料館南駅周辺の賑わい創出については、現在、事業手法についてアイデア出しのレベルから勉強したいと考えている。

○委員長

瀬戸市駅前から陶磁資料館を通過して、モリコロパーク前まで来るバスがひとつの観光ルートとなって、瀬戸市と長久手町が連携する動きになると思う。

陶磁資料館は、リニモの車窓から見えることであるし、多くの方に知ってもらえるような工夫が必要である。

○委員

陶磁資料館南駅から陶磁資料館まで、愛知県内の焼き物のすばらしさを見ていただく場にもなるし、工業材料としての焼き物をアート風に見せるなど、できることはいろいろあると思うので、単に、きれいに舗装をして木を植えた、ということにはならないようにしてほしい。

○委員長

トヨタ博物館や陶磁資料館などの集客施設で、リニモとセットで集客力のある企画を開催することも考えられる。

○委員

リニモ沿線の雑木林は、例えば二の池など、おもしろい自然環境が残っているのでよく歩くが、県有地で入れないところも多い。保安林であるから簡単に開発はできないが、いろいろな人が歩いて自然を楽しめるような簡単な遊歩道のある里山づくりができないかと思う。

○事務局

県有地の管理のために入れなくなっていると思うが、ご意見があることは担当部局に伝える。遊歩道を作ることはなかなか難しいと思われるが、次回状況を報告する。

○委員

愛知学院大学では、昨年度から、古戦場駅からのシャトルバスの運行を実施しており、非常に多くの学生に利用されている。愛知高速交通の広報の効果もあったが、入試の合格者の書類の中に、利用を促す案内を入れたことが功を奏したと思う。

資料1の主要施策の23番に記載のある、沿線大学のコンソーシアム形成に関しては、県から、愛知学長懇話会に働きかけをしていただくことも可能であると思う。

○委員

リニモ沿線の学校数、学生数は、今後、必然的に頭打ちになってくる。また、昨今の大学の状況をみると、再び都心回帰の方向へ向かっている。そこで、リニモ沿線には人が住むすばらしい環境があるので、里山住宅のような環境で人が住む開発ができればすばらしいと考えている。

ハイテクの鉄道が走っており、豊田方面へのアクセスも非常に便利であるということで、このエリアにもっと人が住む方法はないだろうかと考えており、今後、4市町で、里山的な要素で自然環境もあるというように誘導していただきたいと考えている。

○委員

長久手中央土地区画整理事業では、イオンの誘致が決まったということである。

住宅事業を行うに当たっては、駅ができ、商業施設ができ、病院があることが一番の理想型であると思う。日進市、長久手町は、隣接した地域で土地区画整理事業を行うということだが、日進市、長久手町とも、病院が立地する予定はあるか。

○事務局

長久手中央土地区画整理事業の中では、予定はない。

○事務局

日進東口論議土地区画整理事業においては、近隣に大学病院があるということもあり、今のところ予定はない。

○委員長

万博の理念を継承しながら、長久手町を中心とするリニモ沿線の開発の中でどのような住宅を作るかということは重要である。今後、行政は、土地区画整理事業を進めるうえで、万博の理念に基づきながら地元の地権者と話をし、一方、民間事業者が行う開発についても同じように万博の理念に基づいた姿勢でいていただけると一番よいと思う。

リニモ沿線は、基本的に環境配慮型であるとか、環境に配慮した住宅作りという考えであるので、行政で条例化していただけると、住宅事業者としてやりやすいし、それが地域の付加価値になっていくと思う。安っぽくて環境を壊すようなまちづくりでは最終的に生き残っていけない。

大学に都心回帰の流れがあっても、みんなが都心の大学に行くのではなく、環境のよいところで勉強したいという学生は必ず残ると思われるので、都心と競合できる地域づくりを行う必要がある。

住宅事業者の方からも意見を言ってもらい、経済活動が環境の中で調和できる方策を実現してほしい。

○委員

芸大通駅から県芸大までの道が楽しくなるような道づくりや、駅前の整備の話があれば、県芸大の先生もご意見やアイデアがあると思うので、ぜひ声をかけていただいて、参加させてほしい。

○委員

リニモ沿線の活性化を考えるにあたっては、名古屋市にも協力してもらわなければいけないが、藤が丘駅は、現状でよいのかどうかということを考える必要がある。

リニモの利用については、学生の話が中心になっているが、公共交通機関であるので、長い目で考えれば、お年寄りや女性など、公共交通機関を利用していただけの方々の利便性を掘り起こしていく必要があるのではないかと思う。リニモの藤が丘駅を降りてから、地下鉄の駅まで行くのにお年寄りの方は大変であるので、リニモのホームから地下鉄のホームまでエレベーターで上がっていただけるくらいのことは考えていかないと、とてもリニモを利用しようという話に繋がっていかないとと思う。学生中心ではなく、リニモ沿線の住民の方を主体に考えたときのあり方も考えてほしい。

農業については、これからは、名古屋に住んでいる人に関わってもらえるような農業にしなくてはいけないということを考えているので、そのような地域がリニモ沿線にあれば、活性化につながるのではないかと思う。

○委員長

リニモの利用については、駅まで歩く人、バスを利用する人というように、駅の周りに住宅があつて、通勤、通学に利用することもやはり重要であると思う。

開発にあたっては、リニモ沿線地域づくり構想の趣旨を理解し、資産を食い潰すことなく、長期間にわたって資産を楽しめるよう、環境を中心にして、地域全体の資産を守っていけるような姿勢を忘れないということが大切である。

3 その他

第2回リニモ沿線地域づくり会議は、来年3月頃に開催する予定。

(以上 文責事務局)